

「このイチゴを
なくしたくない」。
引き継いでいくことが
これからの使命。



広島県三原市

イチゴ
稲葉 友和さん・こずえさん

三次市出身で、広島市内で広告デザイナーとして働いていた稲葉友和さん(42)は、大和町出身のこずえさん(42)と結婚。長男が小学校に入学するのを機に、大和町へ移住。こずえさんの両親が営む農園と味を引き継ぎ、日々奮闘中だ。



(1) 肥えた土壌と日当たりの良い場所で育つ親株。この親株から育てた苗が成長すると花を咲かせ、12月下旬から5月末まで実を付ける。友和さんはハウスを新設し、栽培面積を8アールから12アールに増やした (2) 贈答用としても人気が高い



(1)「広島で働いていたときは夜遅くまで仕事をしていたので、子どもの顔を見ることもできなかった」と友和さん。こずえさんは「一緒に過ごす時間が増えたね」と笑顔 (2) 収穫したイチゴに貼るシールは友和さんがデザイン。かわいらしい図柄にデザイナーの腕が光る

後継者に志願した理由は
「守るべきおいしさ」

稲葉友和さん…妻の実家は農家で、イチゴや水稲、トウモロコシなどを作っています。中でもイチゴの味は格別。ですが、その味を引き継ぐ後継者がいませんでした。このイチゴのおいしさを絶やしてはいけないと思っていた私は、妻の実家へ戻ろうと決意。2010年に大和町へ移り住んだのです。

農作業を経験したことがなかったため、新規就農者育成研修に半年ほど通い、町内の農事組合法人で1年半働きました。その後、両親がやっていた農園を手伝うようになりました。土耕でのイチゴ栽培は大変な手間がかかり、休みはありませんが、手間をかけているからこそ、他にはないおいしさがあると思っています。

大和町は自然が多く、空気がきれいで、何より「人が良い」のが魅力。両親の家の隣にマイホームを建てることもできました。子どもと同級生と家族ぐるみのお付き合いをさせてもらい、元気に暮らしています。

これからは妻や両親と力を合わせ、イチゴの流通を広げたいと思っています。私がおいしいと感じた味をそのまま受け継いでいくことが、今の使命ですね。

DATA

いなば農園

【お問い合わせ】
広島県三原市大和町上徳良3701
TEL:080-5232-8660